

【平成17年度専修学校教育重点支援プラン事業】

事業名	「50歳代女性の衣服製作のための計測データを基にした体型研究」		
学校法人名	学校法人文化学園		
学校名	文化服装学院		
代表者	理事長 大沼 淳	担当者・連絡先	文化・服装形態機能研究所 03-3299-2272
<p><事業の概要></p> <p>50歳代女性の体型について、現状では計測データが少なく、衣服製作が困難であるため、体型特徴を知った製作技術のある人材の育成を目指すことが必要である。そのために人体計測を行い、体の形やバランスを理解するための視覚的教材（50歳代女性人体モデル）や三次元計測値を基にしたデジタルデータを開発する。</p> <p><成果></p> <p>本事業としてまず、50歳代女性の体型に対する意識調査のアンケートを実施した。その結果ライフスタイルの違いに関わらず、ほとんどの人が自分の体型に関心があり、しかも満足していない。また気になる部位は圧倒的にお腹回りや下腹等腹部をあげており、この部位が太いことやたるんでいることを気にしていることが分かった。従って、ウエスト周辺を服で美しくカバーすることが衣服設計の重要な要素と言える。</p> <p>次にマルチン式計測では計測結果を青年女性（18～24歳）と比較することで各計測部位の平均値だけではなく、加歳とともにバスト周囲やウエストの幅・厚み・周囲などが大きくなっていることが明瞭となった。</p> <p>さらにシルエット計測では正面・側面の体型バランスを見るとともに同じ50歳代でもウエスト周辺の形状は個体差が大きいことが顕著である。また、正面から見たウエストからヒップにかけてのカーブを工学的手法により分析した結果、沈着した脂肪のふくらみが特にウエストからミドルヒップにかけて出ることが青年女性と異なり大きな特徴を示すことが分かった。</p> <p>今回導入した3次元計測機による計測では、形状データから人体形状モデルの実体化が完成した。これまでは50歳代の体型について視覚に訴える資料がなかったが、中央形態を含む異なる3タイプの生体形状を実体化できたことにより、具体的な形状の把握ができ、衣服設計に有効な指標として使えるものとなった。</p>			